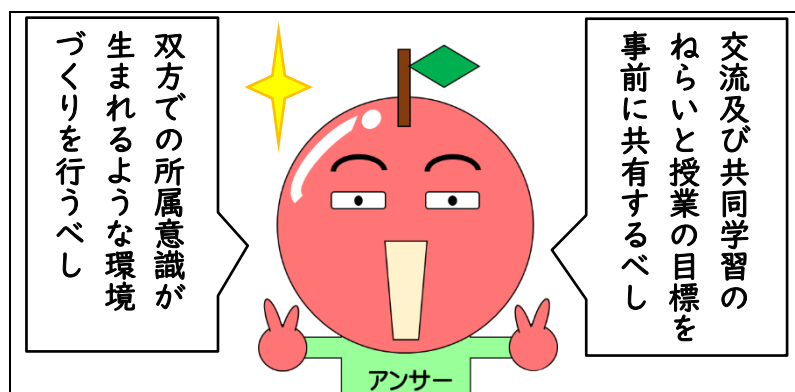
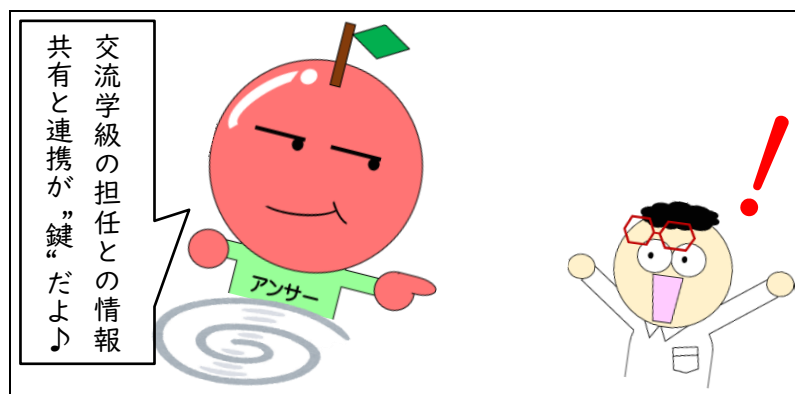
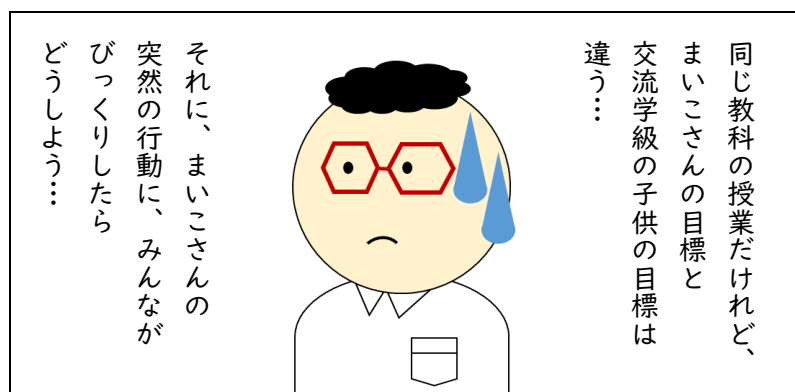


Q7. 交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をすればよいのですか？



交流及び共同学習のねらいと授業の目標を事前に共有する

- 同じ場所で授業を受けていても、双方の子供にとって、交流及び共同学習のねらいや授業の目標が異なるため、交流学級の担任と事前に共有しておきましょう。

交流及び共同学習では、学校、子供、保護者等の関係者がその意義や目的、ねらいについて十分に理解することが大切です。そのためには、年度の早い段階で、双方の教員が子供の実態を押さえ、双方の交流及び共同学習のねらいや授業の目標を共有して、授業の流れ・展開を計画する必要があります。また、特別支援学級の子供が安心できる学習内容を取り入れ、無理なく取り組めるような工夫（合理的配慮の視点を加えるなど）を行えるように、個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に話し合ってみましょう。

また、行事等の交流では、事前学習で活動の目的や内容等を具体的に子供に伝え、事後学習で「交流学習はどうだったか」「どんな気持ちだったか」「今後はどんな活動をしてみたいか」など、子供と一緒に振り返りを行いましょう。そして、「目標の達成度」を確認して今後の取組に生かしたり、次の交流に対する関心を高めたりすることができるといいですね。子供の変化や成長の様子も交流学級の担任と共有していきましょう。



所属意識をもてるような環境づくりを行う

- 特別支援学級と交流学級の「双方に所属があり、授業（活動）によって行き来する」ことが自然である雰囲気をつくりましょう。

特別支援学級と交流学級の双方に所属している意識が生まれるような「過ごしやすい環境づくり」を目指したいですね。

環境づくりのポイント

- 交流学級の下駄箱に特別支援学級の子供の下駄箱を配置
- 双方に座席とロッカーを準備
- グループ学習時の編成
- 交流学級に係活動、クラブ活動、委員会活動の所属を表示
- 特別支援学級の子供に交流学級の学級だよりなどを配布 等



そして、交流学級でも周りからの刺激が過度になりすぎない工夫や、突発的な出来事に混乱した場合に休憩できる場所が確保できると、子供がより安心して学習できると思います。その他、配慮してほしいことや心配に思っていることなどは、なるべく授業の前（例えば、放課後や朝の打合せ時）に交流学級の担任と話をし、安心した気持ちで子供を送り出しましょう。

【文献】文部科学省（2019）：交流及び共同学習ガイド。

よく一緒に読まれている Q

Q6 「学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか？」

Q8 「交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？」

[目次に戻る](#)